

平成18年 敬老作文集

小学生の部

最優秀賞

大好きだよ、おじいさん

井川小5年 高橋直也



直也さん
(上村)

敬老作文コンクールの入賞者の表彰と最優秀賞を受章された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行なわれました。

今年も井川小2・5年生、井川中2年生から合わせて160点余の応募があり、それぞれ最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞2点の計10点が入賞しました。

入賞された方々の敬老作文をご紹介します。

ぼくは、おじいさんのことを、とても大切に思っています。理由は、いつも、ぼくのことを心配してくれるし、将棋で相手もしてくるからです。将棋はなぜか今だに勝てません。

「どうすれば強くなるの」とたずねてみると、「たくさん勝負をして、知恵を働かすんだよ」と教えてくれました。

あと、低学年のころはいろいろな遊びを、教えてくれたり、いっ

しょにねたりもしてくれました。ぼくはいつも「ぼく、一ヶ月に一回、いや一週間に一回はいっしょにねていい」と言う、「うん、いいよ。直也の好きな時はいつでも来い」と優しくささやくように言ってくれました。

その時、いつも「やったー」と言って、はしゃぎ回っていたのを覚えています。でも、このころは、ぼくが高学年に、なったこともあり、おじいさんともねなくなりましたが、ぼくがおじいさんを好きな気持ちはずっと変わっていません。安心して下さい。

でも、そんなおじいさんに直してほしいことが一つあります。それは、たばこです。量は減ったんですが、まだ、少々すっているようです。健康のためにも、やめてほしいです。もっと、ずっと長生きして、ぼくに昔の知恵をたくさん教えてください。

だからおじいさん。これからはあまり無理をしないでください。

疲れた時は、ゆっくり休んでください。ぼくも力が付いたので、肩もみしてほしい時は、いつでも声をかけてください。

「大好きだよ、おじいさん。」

優秀賞

ぼくのおじいさん

井川小5年 菅生剛基



剛基さん
(仲台)

ぼくはのおじいさんは、ぼくのことを思ってくれる、優しいおじいさんです。今はさくらえんにいますが、ぼくが小さい時は、家にいました。家にいたころは、おじいさんは働き者で、田畑で米や野菜を作ったり、山に行き、木を切っ

たり、山菜をとってきたりと、ぼくたちのためにがんばってくれました。また、たくさん遊んでもくれました。

でも、ぼくが大きくなると、おじいさんは脳こうそくと言う病気になってしまいました。体が不自由になり、何回も入院をくり返し、だんだん体が弱くなりました。時々、家族で面会に行くと、ぼくの手をにぎり、とても喜んでくれます。また、食べやすいプリンやゼリーを食べさせてあげると、うれしそうに食べてくれます。

六月二十日におじいさんの誕生日があります。毎年プレゼントにおじいさんの好きなモンブランやゼリーなどをあげます。すると、とても喜んでくれますが、それ以上に喜んでくれたのが、ぼくが学校で書いたおじいさんへの感謝の手紙と小さい時に書いた「魚」の絵です。手紙は学校の勉強で書くことになり、「小さい時に、いっしょに遊んでくれてありがとう。

早く退院して、ぼくの家に来てね」と書きました。絵はとも魚に見えないような絵でしたが、おじいさんは、とても大事そうに受けとってくれました。今でもおじいさんは、二つとも大切にかざってくれています。ぼくはあげてよかったなあと思いました。

今は、ぼくが野球部に入ったので、なかなか面会に行けなくなり、おじいさんもさびしいと思います。でも、ぼくが元気ががんばることがおじいさんのためになると思います。今以上に、野球が上手になり、選手になって活やくした話をしてあげたいと思います。それまでおじいさん元気でいてね。



ぼくのおじいちゃん

おばあちゃん

井川小2年 伊藤健斗



健斗さん
(今戸)

ぼくはおじいちゃんとおばあちゃん、とてもはたらくものです。あさ、ぼくがおきるずつと前からおきて田んぼやはたけに行ったり、いえのことをしたりしてはたらいっています。

おじいちゃんは、こめをつくる名人で、いつもおいしいこめをつくって食べさせてくれます。おじいちゃんは、じぶんが小学校に入ったところからずっと田んぼのしごとを手つだっていたそうです。田んぼにつかうきかいは、なんでもうまくつかえるので、プロだと思っています。ぼくも大人になったら、

おじいちゃんみたいにプロになってたすけてあげたいです。

おばあちゃんは、とてもりょうりがうまくて、ぼくの食べたいものをなんでもつくってくれます。とくに、カレーライスは、ぼくの一ばんすきなものでいつもいっぱいおかわりをします。はたけでやさいもいっぱいつくって、ぼくにやさいのことをたくさん教えてくれたり、いっしょにはたけにとりにつれて行ってくれたりしてたのしいです。

ぼくは、早く大きくなって、おじいちゃんとおばあちゃんの手つだいをいっぱいして、おいしいこめやさいもをつくれるようになりたいです。ぼくの知らないことをいっぱいおじいちゃんとおばあちゃんに教えてもらってなんでも知っている人になりたいです。

優良賞

いつも頑張る

自慢のおばあさん

井川小5年 小林夏実



夏実さん
(綱木沢)

わたしはおばあさんのことが大好きです。

なぜかというところ、いつも畑仕事をがんばっているし、優しいからです。家にはたくさんのお花があります。おばあさんはその畑を一人で世話をしています。前に理科の実験で使ったインゲンマメの苗をおばあさんからもらった小さな畑に植えました。肥料をやって育てていくとどんどん成長して、インゲンマメと花がさきました。とて

もうれしかったので三本をビニールぶくろに入れて学校に持っていきましました。みんなに見せると、友達や先生がびっくりしていました。た。(おばあさんの畑はやっぱりすごいんだ)と思いました。おばあさんの畑にはきゅうりやトマトやトウモロコシやたくさん野菜があります。わたしが学校から帰ってくるいつものようにおばあさんが畑仕事をしていました。

「おばあさん、ただいま」と言うとおお帰り、畑からきゅうりをもいで食べな」と言ったので、わたしはそのきゅうりを食べました。すごく新せんで思わず「おいしい」と言ってしまうました。おばあさんはわたしの一言がとてもうれしかったようです。

いつもたくさんがんばっているのたおれたりはしないで下さい。おばあさんは今、高れい大学に通っています。もう五年になります。体操教室にも通っていて、毎

日いろいろなことを頑張っています。これからも無理をせずにとずつと長生きをして下さい。いつも一生けん命がんばる私の自慢のおばあさん。わたしはこんなおばあさんが大好きです。

わたしのひいおばあちゃん

井川小2年 小玉彩乃



彩乃さん
(街道)

わたしのひいおばあちゃんは、とてもやさしいしはたらきものです。いつも足がいたいひいおじいちゃんのおせわやひいおじいちゃんのごはんをつくったりしています。弟とあそんでくれたり、みんなのお手伝いをしてくれたりするのでとてもたすかります。ひいおばあちゃんは、せながまがつ

ていてもはたらきものです。としをとつていてもはたらくのです。いとあります。元氣だし力がつよいので、あん心です。

あと、とてもやさしいところも大すきです。弟がころんだりすると「だいじょうぶ」と話かけてくれます。みんなにもやさしいけれど、わたしには一ばんやさしいです。もんだいやお絵かきをするときはいつしよにします。もんだいをつくるのもうまいし、絵をかくのもとつてもうまいからわたしはいつも「うまいね、ひいおばあちゃん」と言っています。弟もときどき言います。ひいおばあちゃんは絵をかくなのかあと思きです。わたしも絵をかくなのかあに絵をうまくかけるようになりたいます。はたらきものでやさしいひいおばあちゃんみたになれるように、がんばります。

中学生の部

最優秀賞

親代わりの祖父母

二年B組 門間将吾



将吾さん
(海老沢)

僕は今、父方の祖父母と兄二人と暮らしています。僕はこの一緒に住んでいる祖父母について話したいと思います。僕の祖母は今アマノで働いています。祖母は朝の六時半に家を出て、午前十一時頃に帰宅します。そして家に帰宅すると糸切りの内職をしています。その内職はかなり大変で僕が手伝ったとき内職の大変さがわかりました。

ある夜、夜中に目が覚めて、居

間に飲み物を取りに行きました。すると居間に電気が付いていて、誰か電気を消すのを忘れたのかなと思って見てみると祖母がまだ内職をしていました。僕はかなりおどろきました。そして祖母が「まだ起きてたの?」と言いました。僕は「まだ内職してんの?」と聞きました。祖母は「いつつもこの時間までやってるよ。」と言いました。僕は言葉ができませんでした。祖母がそこまでがんばれるのは、少しでも、家計を助けようという気持ち強いからです。

次は、祖父について話したい



と思います。僕の祖父は今年で七十歳になります。ですが、今でも仕事をしています。そういう祖父ですが僕は飲酒、喫煙に困っています。たくさんお酒を飲んでいられることもあります。あと、たばこをやめられないらしく、いつもたばこを吸っています。歳も歳なのでいつ倒れてしまうかと、とても心配しています。ですが、祖父は逆に僕のことを心配してくれているのだと思います。なぜなら僕がいつもより起きてくるのが遅いと僕の部屋に起しに来てくれるからです。この前寝ぼうしてしまったとき祖父に起してもらい助かったこともありました。それに毎朝帰りは何時頃になるか聞かれます。どんな小さなことでも、気になるくらい僕のことを心配しているから聞いてくるのだと思います。僕はそういう祖父母を持って幸せだと思っています。これから元気でいてくれるように祖父母を大切にしていきたいと思っています。

優秀賞

助け合える社会に

二年B組 伊藤美貴子



美貴子さん
(今戸)

今、社会では高齢化が進んでいます。井川でも高齢者の施設があります。二年生は今年、井川の各施設にボランティアに行きました。

私は最初、「お年寄りの世話は大変だな」と思っていました。そして実際にやってみると、思ったよりも、ずっと大変でした。ベッコをふいたり車を押して散歩をしたりなど、色々ありました。そして、利用者が使うふきんをたんでいと近くに座っていたお

ばあさんが、「ふきんはそうたたむんじゃね、こうやってたたむんだ」と自分のおばあさんのように、やり方を教えてくれました。帰りには、「気を付けて帰れや」などと心配してくれます。

私のおばあさんも、出かける時にすごく心配してくれます。出かける時にはいつも、「気を付けて行けよ、早く帰ってこいよ。」など言ってくれます。たまに「うるさいな」と思ってしまう時もあるけれど、それだけ心配してくれるんだと思います。

ボランティア活動をして分かったことがあります。それは、お年寄りには皆、子供の心配をしてくれる事です。いつも安全に気を使ってくれて、子供を見守ってくれます。そしてもう一つ。お年寄りは大変だということです。人の助けを借りないといけない事も増えてきます。だから、今度は子供がお年寄りを助ける番だと思います。

今は、子供よりもお年寄りの人

口が増えていきます。だからこそ、子供とお年寄りが助け合っていければいいと思います。

自分探しと おばあさん

二年A組 菅生真心



真心さん
(大倉)

「こんにちはあ、おじやまします」

この言葉から、私の青雲の時間が始まります。毎週一回、一人暮らしのおじいさん、おばあさんの家に行きます。そして、一時間半くらいの時間で、一生懸命に窓をふきます。これが私達の仕事です。

ボランティアで、仕事をしているのにもかかわらず、どこの家でも窓ふきが終わると、「これ食べたいけえ」と言ってお菓子や飲み物をくれました。

そこで思ったこと。
(逆に気を使わせちゃってるよなあ)

訪問した家のおばあちゃんは、とてもあたたかくて、優しくかったです。私達に、窓ふきのコツを教えてくださいました。そのおかげで、次に訪問した家の窓も、前よりきれいにふくことができました。

そこで、心に残った言葉。

「本当にどうもありがとう。めんけえなあ。」

そう言ったおばあさんの顔は、とても嬉しそうでした。なんか、自分も嬉しくなってくる感じがしました。

終わった後に気づいたことは、自分の家の窓はふかないのに、他人のために、一生懸命に窓をきれいにした自分がいたことです。私はこのボランティアで、一人暮らしのおばあさんのためにがんばった自分を、見つけました。

そして、「ありがとうございまして。さようなら。」

この言葉で、私の青雲の時間が終わりました。

最後に、訪問した家のみなさんに、心からお礼を言いたいと思います。

「本当にありがとうございました。」

優良賞

私の家の元気さん

二年B組 門間史織



史織さん
(さくら)

私達と一緒にくらしているお祖母さんは、とても元気がいいです。老人クラブで公園の草取りなどがあるとどんなに暑くても必ず参加します。それを見る度に私は『え、今日も行くの?』とおどろいてい

まいます。しかしお祖母さんの元気はそんなものではありませんでした。毎日の晩ご飯づくり。いつも色とりどりで栄養のあるこんだてばかりです。

あと、腰が痛い腰が痛い、と言いながらも自分より背の高いさにおに洗たく物を干してくれていませす。その光景を見ると、手伝わすにはいられないので「手伝うよ」と声をかけるのですがいいからいいから、と笑いながらお祖母さんは言います。そう、その元気なおかげで今私はこうして気持ち良く生活ができていますのです。お祖母さんありがとうございます。

話は変わるのですが、家のお祖母さんはよく気をつかってくれます。例えば私が夏休み一日練習だった日とかは、すぐお風呂に入れるように、そうじしてあります。そのおかげで私はすぐ入れるのでいいですが、お祖母さんはその分大変です。でも、とても助かります。

それから家のお祖母さんは心配性です。毎朝学校に行くときとかには「忘れ物してねえが」と聞いてきます。

私が軽くノドが痛かったりしたときも「大丈夫だが？」とものすごく心配そうに聞いてきます。お祖母さん、少し大げさすぎるけど嬉しいよ。長生きしてこれからも家事頑張つて。本当に困ったときは助けてあげるから呼んでね。お祖母さん、本当にありがとうございます。

スマイルNo.1

二年A組 安田千聖



千聖さん
(寺沢)

私のあばあさんは、笑顔、笑顔、笑顔だ。お母さんは福祉の桐ケ丘で働いて、早番や遅番、夜勤

などがある。ほとんど毎日、朝から夜までお母さんがいない状態なので、家の事はあばあさんがやっている。朝早く起き、畑に行つてから朝食、それから、歯みがきなど、やる事をやつてから、月曜日

から金曜日まで毎朝やつている連続テレビを見るのだ。午後三時半になると、小学校から帰ってくる弟をバス停までむかえに行き、そして家に帰ってきたら、弟とコミセンに行く。これを朝から夜まで書くと、この二枚の紙にはまらない位、たくさんのお仕事をしている。

こんなハードな毎日でもあばあさんは笑顔。疲れていても笑顔。何かあったら笑顔でごまかす。私は、あばあさんが疲れているとき、肩もみをしてあげる。すつこく、こつている。あばあさんは肩がとても痛そうで、もう限界まできているのかもしれない。肩もみをしてあげると、いつも、とても気持ちよさそうだ。疲れている事を知らず、私は休みのときしか手伝わ

なかった。前、敬老作文を何回か書いたが、それにはいつも「これからは、お手伝いをしっかりとやる」と書いています。作文に同じ事を何回書いても、しっかりとお手伝いを

した事は一度もない。あばあさんは、いろいろ疲れて、早く寝たいと思つているだろう。夜になると、弟の遊び相手。虫を見に行つたり、花火をしたり。あばあさんは、遅寝、早起きです。あばあさんは怒つたり、笑つたりするけれど、孫の前では、つらい顔を絶対出さない。つらくても笑顔で我慢する。

これから、あばあさんにつらい事をさせたくないので、自分ができる事は自分がやる。お手伝いを約束し、絶対やるようにしたい。「これからもスマイルNo.1で！」
「つらい事あったら言つてネ！」
「いつでも助けるから！」

あばあさん大好き☆